

# 児童養護施設職員のニーズと職務継続意思に関する研究

Text Mining Studio2.2.1によるテキストマイニング

○八城真里

伊藤武彦

井上孝代

(国立国際医療センター戸山病院小児科)

(和光大学現代人間学部)

(明治学院大学心理学部)

キーワード：児童養護施設、職務継続意思、テキストマイニング

**問題** 近年、被虐待児の入所の増加もあり、児童養護施設(以下;施設)の入所率が増加し(保坂, 2004)、処遇の困難なケースが多くなっている。そのため、関わる職員のより高い専門性が求められている一方、職員の身体的・精神的負担が加速化し、施設職員が離職にいたるケースも多く、職場定着率の低さや職員の入れ替わりの激しさが危惧されている(岡本, 2000 他)。八城(2008)は、現場で働く施設職員を対象として、職務継続意思に影響をおよぼす諸要因に関する研究として質問紙調査を行なっている。この質問紙調査は、公開されている児童養護施設リストに基づき、全国557施設に往復はがきにて調査協力依頼をし、協力許可を得られた施設の職員1313人に配布され、1024人(78%)の回答を得ている。

**目的** 本研究の目的は、八城(2008)が行なった質問紙調査の自由記述を詳細に分析することにより、施設職員が現状をさらに良くしていくためにどのようなニーズを持っているのか、援助者を長く続けたいと思っている職員とそうではない職員とではどのような特徴があるのかについてテキストマイニングの手法を用いて明らかにすることである。

**方法** 本研究の分析データは、八城(2008)が行なった質問紙調査で回収した1024人の質問紙の自由記述部分に回答のあった826人(81%)のデータを使用した。サンプルの構成は、性別では、男性274人(33%)、女性552人(67%)、職務継続意思別では、高群(10点以上)413名(50%)、低群(9点以下)405名(50%)であった。なお、教示文は、「あなたは児童養護施設の現状をさらに良くしていくためには何が必要だと思いますか?」となっている。質問紙調査自体は2007年9月~10月に実施されたものである。

**結果 1) データ全体の構造と特徴について**; 話題分析により、データ全体の構造や特徴を分析した結果、13のクラスタに分けられた。各クラスタ間の距離を主観的に与え、PAC分析の手法を用いてクラスタの配置を行ない、空間的に整理し、図1の結果を得た。

**2) 職務継続意思得点別解析**; 高群では、①職場内の人間関係に関して述べていることば、②子どもと関わる余裕や時間に述べていることば、③施設の理解を求めることについて述べていることば、④職員の増員の必要性を述べていること

ばとなっている。一方、低群では、法制度を含む施設自体の抜本的改革を求めるものや労働環境や条件についてのべているものが多かった。また、子どもと関わることへ難しさを感じていると思われることばも多くあげられていた。

**考察 1) 支援向上に関するニーズの全体的特徴**; 多くの施設職員が、職員配置の見直しが必要だと述べている。この背景には、被虐待児などより手厚い支援の必要な子どもの入所の増加や支援ニーズの多様性が挙げられている。また職員の手の足りなさからくる子どもとの十分な関わりが持てないという現状があり、よりきめ細かい支援を行うためには施設の小規模化が求められている。また、給与の安さから一生の仕事として働けないという状況が明らかになり、安心して働ける給与も求められている。

**2) 職務継続意思別の特徴**; 職務継続意思が強い群と弱い群では、子どもとの関係の築きの部分で差が出ているようである。また、職場の雰囲気やチームワークが職務継続意思に影響を与えていることが明らかとなり、コミュニティ感覚を高めることが職務継続意思を強めるといえる。これまでも現場の職員が、法制度の見直しによる職員数の増加、安心して働ける給与等の労働条件の改善、職員同士や他機関や他職種との良い連携やチームワークの必要性を感じているということは指摘されていたことではあるが、本研究はデータに基づきそのことを裏付けることができた。

**今後の課題** 本研究で行ったようなテキストマイニングは、自由記述回答という質的データを量的に裏付ける有効な方法であり、このような方法論的興味も今後の課題である。

【主な引用文献】

八城真里・井上孝代・伊藤武彦 2008 児童養護施設職員の職務継続意思に及ぼす影響要因に関する研究：物理的・環境的要因及び心理的要因(バーンアウト・二次的外傷性ストレス・共感満足)に注目して 日本コミュニティ心理学会第11回大会発表論文集, 138-139.

Creswell, J.W. 2003 Research Design: Qualitative, quantitative, and mixed methods approaches (2nd ed.) Sage 操華子・森岡崇(訳) 2007 研究デザイン：質的・量的・そしてミックス法 日本看護協会出版会

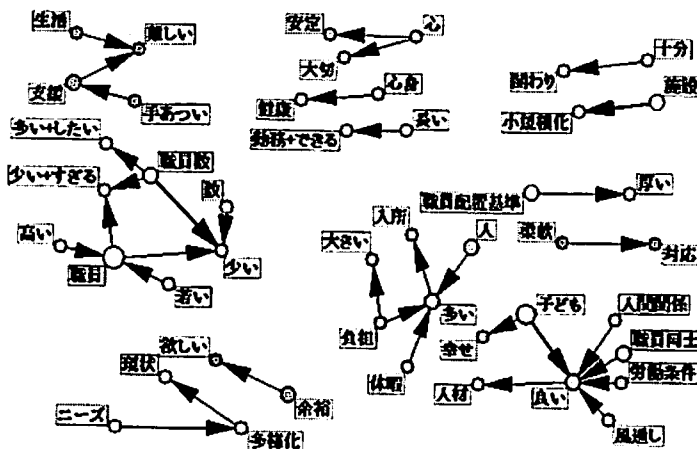


図1. 児童養護施設職員のニーズ(ことばのネットワーク図)

## 児童養護施設職員の職務継続意思に及ぼす影響要因に関する研究

-物理的・環境的要因及び心理的要因(バーンアウト・二次的外傷性ストレス・共感満足に注目して)-  
八城真里 (国立国際医療センター)・井上孝代 (明治学院大学)・伊藤武彦 (和光大学)

### 目的

近年、家庭や社会の多様化に加え、親の社会的不安や情緒的未成熟による虐待の増加、その認知の広まりによる通報件数の増加もあって、保護を必要とする子どもの児童福祉施設への入所が多くなっている(保坂ら, 2004)。このような状況下、施設の職員には、様々な事情を背負った子どもたちを支援するためのより高い専門性が求められている一方、職員の身体的・精神的負担が加速化し、職員が離職にいたるケースも多く、職場定着率の低さや職員の入れ替わりの激しさが危惧されている(浅倉ら, 1996 他)。この援助者の離職や入れ替わりの激しさは、離職する当事者だけでなく、一緒に働く者や入所児童にも影響を与えることと考えられる。職員の主観的な幸福と QOL を促進するために、職員のメンタル・ヘルスに影響する環境や心理的な要素を調査により明らかにすることは意義があるだろう。しかし、児童養護施設職員を対象にした職務継続意思に関する研究はほとんど見当たらない。そこで本研究では、児童養護施設職員の職務継続意思に影響を与える環境及び心理的要因を探索的に明らかにすることを目的とした。

### 方法

1) 対象：社会福祉法人全国社会福祉協議会全国児童養護施設協議会のホームページにて公開されているリストに基づき、557 施設に往復はがきにて調査協力依頼をした。結果、約 300 施設から返信を得、うち 133 施設より協力許可を得た。協力許可を得た施設の職員を対象とし、調査は 2007 年の 8 月下旬～9 月に実施した。質問紙は 1313 部配布し、1024 名 (78.0%) から回答を得た。

2) 調査内容：郵送自記式順序尺度質問紙及び自由回答記述併用；①フェイスシート、②専門家の生活 共感疲労と疲労下位スケール-改訂Ⅲ版、③ソーシャル・サポート、④職務継続意思、⑤自由回答記述

3) 分析方法：【分析 1】では SPSS15.0j for Windows を用いて、職務継続意思との関係について  $t$  検定及び分散分析を行い、最終的に有意差 ( $p<.05$ ) の見られた変数について重回帰分析を行った。【分析 2】では、数理システムの Text Mining Studio ver2.2.1 を用いて自由記述の分析を行った。

### 結果

1) 【分析 1】：職務継続意思を規定する諸要因

職務継続意思を規定する諸要因の検討のために、「職務継続意思」を目的変数に、「年代別」「施設形態」「通勤形態」「宿直・夜勤の月回数」「一日の平均実労働時間」「休暇なしでの 7 日間以上の連続勤務」「長期休暇取得」「給与満足度」「職場の人間関係」「共感満足」「バーンアウト」「二次的外傷性ストレス」「ソーシャル・サポート」の 13 項目を説明変数として重回帰分析(強制投入法)を行った。その結果、決定係数は  $R^2=.407$  であり、最も説明率が高かったのは、「共感満足」( $\beta=.484$ ,  $p<.001$ )であった。次にバーンアウト ( $\beta=-.205$ ,  $p<.001$ )、給与満足度 ( $\beta=.104$ ,  $p<.001$ )、ソーシャル・サポート ( $\beta=.096$ ,  $p<.01$ )、二次的外傷性ストレス ( $\beta=.074$ ,  $p<.10$ ) と続く。

2) 【分析 2】：職務継続意思の強弱による特徴

①【分析 2-1】働く中での喜び・充実感

職務継続意思が強い群では、子どもから必要とされたり、子どもたちと一緒にさまざまな場面や